

『広島県病院事業経営計画（令和6年度）』の取組状況  
に係る有識者意見を踏まえた評価報告書  
【令和6年度の評価】

令和7年12月17日

広島県

## 1 本年度の評価について

従来は広島県病院経営外部評価委員会が、「広島県病院事業経営計画（以下「経営計画」という。）」の取組状況に係る点検・評価などを行う外部組織として、平成22年5月に設置され、毎年評価を行っていましたが、今年度から県立病院の運営が、広島県から地方独立行政法人広島県立病院機構に移管されたことから、当該委員会は令和6年度をもって解散したため、今年度は有識者の意見を取りまとめた評価報告書として広島県から公表します。

## 2 評価結果の総括

令和6年度は、令和6年3月に策定した「第7次経営計画」に基づき経営を実施してまいりました。

経営計画では、「医療機能の強化」、「人材育成機能の維持」、「患者満足度の向上」、「経営基盤の強化」の4つの領域を取組の柱として定め、それぞれの領域について、多岐にわたって詳細な具体的取組項目と各項目の目標となる指標を設定しました。

県立広島病院は、広島県全域を視野に入れた基幹病院（三次機能病院）として、救急医療、脳心臓血管医療、成育医療、がん医療の領域を中心に、高度な医療提供機能を維持・強化してきました。新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の影響がほぼ消滅したことから、地域の医療従事者や住民向けのセミナーを対面で積極的に行い、その知見を積極的に伝達することで、県民の安心・安全を守る役割を果たしました。

また、新型コロナへの対応を行いながら、基幹災害拠点病院として、DMATの機能維持や研修・訓練に努めて大規模災害へ備えたこと、初期臨床研修や各種専門医研修を通じて医師の育成に尽力したこと、可能な限り救急車の要請に応えたことは、公共の福祉を増進するという公営企業としての社会的な役割を十分に果たしているものと評価していただきました。今後も、広島県の高度専門医療を担う基幹病院として、県全体の医療をけん引して参ります。

県立安芸津病院は、人口減少や高齢化が先行する地域において、地域包括ケアシステムを担う病院として、地域の介護施設等との連携を推進しました。

一方、収支の面では、医業収益に関しては令和5年度を上回りましたが、入院・外来患者が新型コロナ蔓延以前に戻らず、物価高騰等の影響を受けたことで14億3千万円余の経常赤字を計上するに至りました。そのため、引き続き経営の改善に向けて努力を続けて参ります。

## 3 評価結果

### （1）評価基準と評価方法

経営計画に基づき令和6年度に取り組んだ事項について、次の基準により評価を行いました。

評価基準		評価の考え方
評価	区分	
◎	計画どおりおおむね順調である。	計画の達成に向けた、具体的成果がある。又は目標を達成した。
○	ほぼ順調である。	計画に対して具体的に取り組んでおり、一定の成果が認められる。
△	やや遅れている。	計画に対する取組はあるものの、まだ成果に現れていない。取組が不十分。
×	かなり遅れている。	計画に対して取組が行われているとは言えない。消極的。

## (2) 各病院の評価結果

### ①ー 1 県立広島病院の評価

経営計画に係る取組状況については、令和6年度は23項目（うち評価対象は22項目）の取組のうち、『◎（計画どおりおおむね順調である。）』と評価した項目は3項目となりました。

経営計画において重点取組項目として設定した救急医療、脳心臓血管医療、成育医療、がん医療などの医療機能の強化については、マンパワーの不足などの、様々な制約がある中、広島県の高度専門医療を担う基幹病院としての役割を果たしました。

具体的には、救急科医師が不足する中、二次医療機関からの重症患者受入応需率は99.8%と高い水準を維持しており、また新生児科では新規入院患者数が前年度比で上回っており、ハイリスク分娩管理件数も大きく増加しており、総合周産期母子医療センターとしての役割を果たしました。また、がんゲノム医療拠点病院として、ゲノム診療体制の充実を図り、外来化学療法件数が伸びた点や、手術支援ロボットによる手術件数の目標を達成するなど、患者にとって低侵襲かつ高度ながん治療が実施されたことを評価していただいたところです。

新興・再興感染症に対する対策としては、職員の感染対策の意識の向上を図り、連携先医療機関に対する感染症対策の助言実施回数が目標を上回っている点も評価いただきました。また、コロナの影響が少なくなったことに伴い対面でのセミナーが大幅に増加しました。引き続き、地域の医療機関との連携を図ってまいります。

収支面においては、医業収益が前年度比で改善しているものの、経常収支では前年度比で34百万円余悪化しており、給与費や材料費等の増加が大きな負担となりました。後発医薬品やバイオ後続品への切り替えによるコスト削減は一定の評価を得ているものの、取組の成果はまだ表れていない、とのお声をいただきました。

今後は、令和12年に予定されている新病院の開設に向けて、医療機能及び経営基盤を強化するとともに、人材育成や県全域での連携強化を図りながら、引き続き、県の基幹病院としての役割を積極的に推進してまいります。

### ①ー 2 評価結果の内訳

#### ア 評価ごとの項目数

評価区分	R5
評価結果『◎』とした項目	3項目
評価結果『○』とした項目	17項目
評価結果『△』とした項目	2項目
評価結果『×』とした項目	0項目
合計	22項目

#### イ 取組方針ごとの評価

取組方針／取組項目	自己評価	総括評価
(1) 医療機能の強化		
I 医療提供体制の強化		
救急	○ 救急医療機能の強化 ○ ドクターヘリ事業への支援	○ ○
脳心臓血管	○ 脳心臓血管医療機能の強化 ○ 広島県循環器病対策推進計画への関与	○ ○
成育	○ 成育医療機能の強化	○ ○
がん	○ がん医療機能の強化	○ ◎
その他	○ 高度急性期病院としての医療の質の維持向上	○ ○
II 医療の安全と質の向上	○ 医療安全の確保	○ ○
	○ 医療の質の向上	○ ○
III 危機管理対応力の強化	○ 災害対策の強化	◎ ◎
	○ 新興・再興感染症	○ ○
IV 地域連携の強化	○ 地域医療連携	○ ○
(2) 人材育成機能の維持		
V 医師の確保・育成	○ 医師の確保・育成	○ ○
VI 看護師等の確保・育成	○ 看護師等の確保・育成	○ ○
VII 県内医療水準向上への貢献	○ 地域医療従事者等への研修 ○ 医療人材の派遣	○ ○
VIII 働き方改革	○ 適切な労務管理	△ △
(3) 患者満足度の向上		
IX 患者満足度の向上	○ 患者満足度の向上	○ ○
X 業務改善	○ TQMサークル活動 ○ 5S活動 ○ 院外への普及活動	◎ ◎
XI 広報の充実	○ 広報の充実	○ ○
(4) 経営基盤の強化		
XII 経営力の強化	○ 情報共有とPDCA ○ 病棟・病床の弾力的運営 ○ DPC特定病院群の維持	○ ○
XIII 増収対策	○ 医業収益の増加策 ○ 診療報酬請求の改善 ○ 未収金対策	○ ○
XIV 費用合理化対策	○ 適正な材料・機器の購入 ○ 経費の見直し	○ ○
(5) 目標指標		
決算の状況		△ △
目標指標の達成状況		— —
総合評価		○

## ②－1 県立安芸津病院の評価

経営計画に係る取組状況については、令和6年度は20項目（うち評価対象は19項目）の取組のうち、『◎（計画どおりおおむね順調である。）』と評価した項目は2項目となりました。

人口減少や高齢化が進む地域において、地域包括ケアシステムの質の向上に向け、予防医療の推進と在宅療養支援の充実に取り組んだ結果、健（検）診件数や訪問看護件数、新規入院患者数は前年度を上回り、安芸津地域に密着した病院の強みとして医療・介護の提供体制の維持に貢献している点を評価していただきました。

広報活動の中では、引き続き地域への医療情報の積極的な発信を行い、地域包括ケアの一環として、安芸津町内や大崎上島などの住民に対して開催した医療公開講座では、目標比を大幅に超えた市民の皆様にご参加いただけたことを高く評価していただいたところです。

収支面においては、重点指標である新規入院患者数では目標を上回ったものの、病床稼働率や入院単価で目標を下回っており、医業収支、経常収支ともに赤字を計上し、経常収支では前年度比で28百万円余悪化しました。経費削減の取組は一定の評価をいただいたものの、入院患者が想定の通り増えず、経営力基盤の強化として成果には表れていない、とのお声をいただいています。

今後も、地域にとって必要な政策医療を提供し、地域包括ケアのモデル病院としての役割を深化させることで、地域の皆様の安心を確保していまいります。

## ②－2 評価結果の内訳

### ア 評価ごとの項目数

評価区分	R5
評価結果『◎』とした項目	2項目
評価結果『○』とした項目	16項目
評価結果『△』とした項目	1項目
評価結果『×』とした項目	0項目
合計	19項目

### イ 取組方針ごとの評価

取組方針／取組項目		自己評価	総括評価
(1) 医療機能の強化			
I 医療提供体制の強化	○専門医療の充実 ○政策医療の提供	○	○
	○予防医療の推進 ○在宅療養支援の充実	◎	◎
II 医療の安全と質の向上	○医療安全の確保	○	○
	○医療の質の向上	○	○
III 危機管理対応力の強化	○災害対策の強化	○	○
	○新興・再興感染症への対応	○	○
IV 地域連携の強化	○地域医療連携	○	○
(2) 人材育成機能の維持			
V 医師の確保・育成	○医師の確保・育成	○	○
VI 看護師等の確保・育成	○看護師等の確保・育成	○	○
VII 県内医療水準向上への貢献	○地域医療従事者等への研修 ○医療人材の派遣	○	○
VIII 働き方改革	○医師の働き方	○	○
(3) 患者満足度の向上			
IX 患者満足度の向上	○患者満足度の向上	○	○
X 業務改善	○TQMサークル活動 ○5S活動	○	○
X I 広報の充実	○広報の充実	◎	◎
(4) 経営基盤の強化			
X II 経営力の強化	○情報処理技術の活用 ○病棟・病床の弾力的な運営	○	○
X III 増収対策	○医業収益の増加策 ○未収金対策	△	○
X IV 費用合理化対策	○適正な材料・備品の購入 ○経費の見直し	○	○
(5) 目標指標			
決算の状況		△	△
目標指標の達成状況		—	—
総合評価			○

#### 4 『広島県病院事業経営計画（令和6年度）』の評価を行った有識者

(敬称略)

氏 名	備 考（職名等）
谷田 一久	東京都立大学 客員教授
大毛 宏喜	広島大学病院感染症科 教授
木倉 敬之	全国健康保険協会 理事
高橋 清子	中国新聞社東京支社 編集部長兼論説委員
平谷 優子	ひかり総合法律事務所 弁護士
茗荷 浩志	広島県医師会 常任理事
山本 隆之	山本公認会計士事務所 所長

※評価は、令和6年度における広島県病院経営外部評価委員会の委員により実施